

# 愛・誠・勇

福島市立福島第三小学校

令和 元 年度『学校だより』

第18号 R元, 12, 23

校 長 佐藤 秀美

文責 教務主任 齋藤 康則

## 2 学期終了

本日3校時、体育館で「第2学期終業式」を行いました。  
校長先生の話の後、1年生、3年生、5年生の代表児童が、第2学期に学習、運動、音楽祭、そして家庭学習に一生懸命取り組んだこと、冬休みの過ごし方や3学期に頑張ることの発表がありました。  
短い冬休みとなりますが、年末年始にしか味わうことのできない経験が数多くあります。健康に気をつけて、元気に過ごしてほしいと思います。



## 幸せの鈴

20日(金)に、「幸せの鈴」贈呈式を行いました。  
この「幸せの鈴」は、毎朝、学校北側の5又路で交通指導を行っていただいている長南千恵子さんが、第三小学校の児童全員の交通安全を願い、一人一人に寄贈してくださいました。音がするだけでなく、光る素材でできているため、夕方などに自分の存在をまわりに知らせて、安全に歩くことができます。贈呈式は、6年1組教室で行い、代表の児童が御礼の言葉を述べました。  
本日全校生に配りました。長南さんの善意に感謝して、使わせて頂きます。



## ハッピー活コーナー

本日お知らせの部・委員会  
厚生委員会

### ○福島市家庭バレーボール大会の結果

11月30日(土)に国体記念体育館で行われた福島市家庭バレーボール大会。  
白熱した1回戦を制し、2回戦へと進みましたが、残念ながら敗退。  
選手のみなさん、お疲れ様でした。応援して下さったみなさん、ありがとうございました。

## 「覚せい剤には手を出さない」と、 子どもが自分で決めるために。

覚せい剤などの薬物の乱用が子どもたちの間に広がっています。その背景には、薬物が簡単に手に入るようになったことに加え、子どもたちが薬物を「エス」「スピード」と軽く呼んでいたりと、「ダイエットに効く」と誤解するなど、薬物の怖さを理解せず、罪悪感が薄くなってきていることなどが挙げられます。

売る側は、都合のいいことしか言いません。親は、薬物は一度使うだけでも犯罪だという毅然とした態度をとることが大事です。そして、薬物はやめられずに依存症になってしまう危険があること、心身そして人生を崩壊させてしまうこと、本人や周囲の人間の苦悩はとて大きいことなどについて、親子で話し合うようにしましょう。

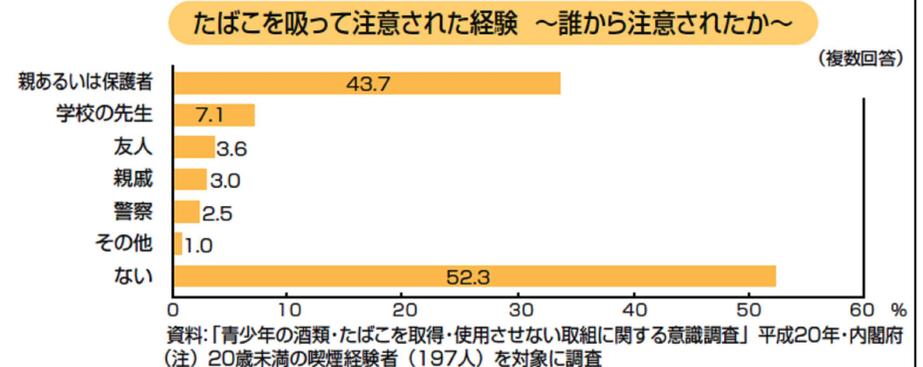
どんな誘惑があっても、親子の信頼関係が子どもを自ら守らせることにつながります。

**薬物の危険性を親子で理解する**

## 酒・タバコぐらいは大したこと ではない、と思っていないですか。

20歳までは、心と身体<sup>からだ</sup>の成長のために特に大切な時期です。未成年者は急性アルコール中毒になりやすい、未成年でたばこを吸い始めた人は、大人になってからの人よりも肺ガンにかかりやすいなど、子どもの飲酒・喫煙が多くの悪影響を及ぼすことが医学的に明らかになっています。また、飲酒・喫煙は子どもの生活の乱れを招き、薬物乱用などのさらに危険な行動につながる入口でもあります。

親は、子どもの飲酒・喫煙から目を背けたり、大したことはないと許したりせず、きちんと注意し、法律で禁止されていること、身体に害があることを、子どもが納得するようによく話し合しましょう。



**子どもの飲酒・喫煙を許さない**